

第8回 HIS (Human-oriented Information System) 研究会 開催報告

研究会主査 川野喜一

■開催日時 2018年3月27日(火) 14:00~16:00

■開催場所 青山学院大学 青山キャンパス 総研ビル 12会議室

■出席者 23名

■講演概要

- 講演者：西垣 通先生（東京経済大学コミュニケーション学部教授、東京大学名誉教授）
- 講演タイトル：「人間中心の AI 技術」
- 講演内容

基礎情報学や社会との係わりの観点から人間中心の概念、AI 技術で問われるべき問題についてお話しいただいた。

- 人間の生きる権利や自由意思を尊重し、人間が機械部品のようにならない
人間中心主義 (human-oriented) の重要性
- 近代合理主義を出自とするコンピュータ、AI と AI ブームの本質
- 生物は自律的な存在 (autopoietic system)。AI は疑似自律的な主体ではない。
- シンギュラリティ仮説はグノーシス神話に過ぎず (AI 哲学者ガナシア)、生命情報を創造しつつ生きる人間に対し AI は機械情報を高速論理処理するのみで、自由意思もなく、責任もとれない。
- AI が人間の自律性を抑圧しないためには対話的な IA (Intelligence Amplification) が必要。
- 質疑応答
先生と参加者との質疑応答 (社会 (他律システム) と人の心 (自律システム) の係わり問題の重要性 (いかに寄り添うか)、哲学・宗教とのかかわりなど) をとおして “人間中心の情報システム” についての考察を深めることができた。

AI については世界的に議論が行われており (その中にシンギュラリティ仮説もあって)、わが国の専門家も甲論乙駁の状態だが、“基礎情報学にもとづく人間中心の観点に立たなければ、AI も含めて先端情報技術の的確な考察は難しい” ということが明示された。このことが今回のご講演の大きな意義であり、その意味で本学会のこれからの活動全体の基調ともすべき内容であったと思う。

以上